

第一まづぬコミュニティ

沼津市第一地区コミュニティ推進委員会広報紙

創刊号・平成9年4月1日発行

地域住民の「ふれあい」の場

第一地区センターが完成

沼津市が第一小学校構内に建設していた第一地区センターが完成。沼津市主催の開館記念式典が、三月三十日午前十時三十分より同センター会議室で挙行された。

式には市当局をはじめ地元第一地区

コミュニティ、学校、工事業者等多くの関係者が列席し、地域住民のコミュニティ活動の推進拠点の完成を祝った。午後からは、地区センター・第一小学校体育館の落成を記念して、バレーボール界のトップチーム・小田急ジュノー対本年度第3回Vリーグ優勝のNECレッドロケッツの招待模範試合が行われ、つめかけた多くの市民に素晴らしいプレーを披露した。

同センターは、鉄筋コンクリート三階建てで、一階は地区センターとして約二百人を収容できる会議室のほか、和室2部屋、調理実習室を備えており他に学校図書室がある。

また二階は第一小学校の体育館として利用されるほか、学校解放施設としても利用できることになっている。

▲完成した地区センター



コミュニティぬまづ第一
発刊にあたって

会長 副島 道彦

待望久しかった第一地区センター並びに第一小学校体育館の落成を、皆様と共に喜び申し上げると共に、開館に至るまでの先輩役員諸氏の「労苦」に、深く感謝申し上げます。立派に完成した素晴らしい建物が、私たちのコミュニティ活動の拠点として与えられた幸せと共に、これからの責務の重大さを感じ身の引き締まる思いでございます。

この新センターを、私たちの「ふれあい」の場として、皆さんに活発に利用して頂き、人間性豊かな、質の高い市民活動の確立を目標に、コミュニティ活動を推進していただきたいと願っております。

センターを中心に展開される多様な行事に気軽に参加して頂き、人とのふれあいのなかで相互の理解を深め、親しみを増すことで、私たちの第一地区を、豊かで潤いのある、住みよい街にしようとの地域造りに参画して頂きたいと思っております。

この度、開館と同時に広報紙を発刊いたしました。お互いの情報提供のなかから、地域住民のための紙面造りを目指してまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

沼津市第一地区コミュニティ推進委員会

設立総会を開催

去る平成九年十二月十二日午後七時より、沼津市教育センター二階会議室において、沼津市第一地区コミュニティ推進委員会の設立総会が開催された。

設立総会には、第一地区自治会連合会の役員をはじめ、コミュニティ推進委員会設立に向けてご尽力された多くの関係者が集まった。

総会は、白銀町鈴木自治会長が司会を務め、開会の挨拶で大川自治会連合会相談役は「再三陳情してきた地区センターが皆さんの建設に対する熱意と努力が市当局に理解され、ここに出来ることを共に喜びたい。お互いの努力で、健康的な街づくりを精進いただきたい」と述べた。続いて副島連合会長が設立

の経緯について「昨年四月に市当局より小学校体育館の建て替えに合わせ地区センターの建設をしたいとの話があり数多くの協議を重ねた上、建設が決まり、完成を迎えることができた」と説明し、さらに「自治会活動の活動拠点ができるこの際、地域の活性化の為にコミュニティを推進しよう」と組織化を考え、自治会連合会が中心となって設立の準備を進めてきた。活動拠点を中心に積極的にコミュニティ活動を進めよう」と挨拶。

来賓の第一中学の正村校長は「活動を通して、この校区を住みよい楽しい街にしたい。祝辞を述べた。続いて議事にはいり、議長に添地町の安藤氏を選出、第一号議案・第一地区コミュニティ推進委員会規約について連合会出口副会長が説明。審議されたが原案どおり承認。二号議案・役員選出について原案どおり承認、事務局長に出口氏を会長が指名した。常任委員候補については連合会

最後に岡田副会長が閉会の挨拶をし、設立総会は滞りなく終了した。



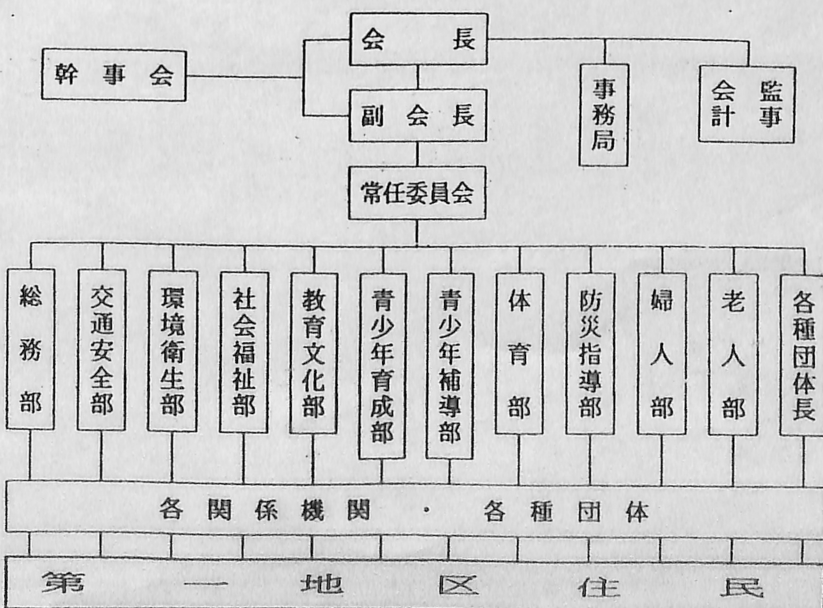
沼津市第一地区コミュニティ推進委員会 設立総会



▶設立総会で挨拶する副島会長
熱心に審議する推進委員達▶



第一地区コミュニティ推進委員会組織図



地区センターの使用にあたって

一、使用時間

地区センターを使用できる時間は次のとおりです。

- ① 午前の部 午前9時から 正午まで
- ② 午後の部 午後1時から 午後5時まで
- ③ 夜間の部 午後6時から 午後9時30分まで

二、休館日

地区センターの休館日は、

- ① 毎週月曜日
- ② 国民祝日の翌日
- ③ 年末年始（12月29日から翌年の1月3日まで）

三、使用の手続き

地区センターを使用される

第一コミュニティ推進委員会

活動重点十箇条

1 活動方針

第一地区コミュニティ活動の推進を図り、地域住民の自主性の促進と組織の活性化を進め、住民相互の協力と信頼のもとで、健康で明るく住みよい地域づくりを目指す。

2 活動計画

- (1) 地域コミュニティ組織の充実と活性化を図る。
- (2) 地域で支える福祉のまちづくりを推進する。
- (3) 地区センターの積極的な利用促進を図る。

第一地区センター使用心得

- 一、使用申込みの予約は、原則として向こう3か月までとします。
- 二、申込みが重なったときの調整は、地区センター運営委員会が行います。この場合コミュニティ推進委員会の公式行事・各種会合を優先させていただきます。
- 三、予約取消の場合は、速やかに地区センター事務局に届け出て下さい。
- 四、管理運営委員会が必要と認めた場合、予約を解除することが出来ます。
- 五、使用にあたっては、事務局の指示に従っていただくとともに、次のことを守って下さい。
- ① 使用目的以外の使用や、使用権の転貸をしないで下さい。
- ② 火災予防には万全を期して下さい。
- ③ 所定の喫煙場所以外での喫煙を禁止します。
- ④ 設備・備品の取扱に注意し、その保全に協力して下さい。

さい。

- ⑤ 机・椅子等を移動した場合は、必ず元へもどして下さい。

- ⑥ 酒食を伴う場合は、事前に管理運営委員会の承諾を得て下さい。

- ⑦ ゴミは持ち帰して下さい
- ⑧ 近隣に迷惑を及ぼさないように注意して下さい。

- ⑨ 特に夜間の使用にあつたては

ア、音響設備を使用するときは音量への配慮をして下さい。

イ、車での出入りの際は空ぶかし・クラクションは絶対やめて下さい。

ウ、地区センター周辺での声高な会話は慎みましよう。

- 六、使用終了時、責任者は使用点検報告書を正しく記入し、センター事務局に提出して下さい。



地区センター

TEL・FAX
六三一五〇八八

「コミュニティ」とは……

「地域に住む人たちが、暖かいふれあいをとおして話し合い、助け合い、喜びも悲しみも悩みごとともにし、力を合わせて知恵を出し合い、より一層快適で住みよい環境を作り出し、心豊かな暮らしをつくりあげてゆく「まちやむら」のことです。『近隣社会』『地域社会』『地域共同体』などと訳されています。



コミュニティ推進委員会

専門部△△の紹介(1)

コミュニティ推進委員会の運営を円滑に行うための専門部会が設けられました。それぞれの専門の業務内容について、ご紹介します。

【総務部】(事務局)

コミュニティ活動を円滑に推進するための企画・調整。
(コミ推進委員会の全体的な活動計画の策定、庶務的業務、対外的な業務)

【交通安全部】

交通災害の防止を図り、安全なまちづくりを推進する。
(交通安全思想の普及・啓発と交通安全の実践指導、交通安全施設の点検整備)

【環境衛生部】

清潔で快適なまちづくりを推進する。
(環境点検活動、美化活動、緑化活動、清掃活動等)

【社会福祉部】

近隣とのふれあいを大切に、心豊かで暖かな地域社会の形成を推進する。

【教育文化部】

(地域で支える福祉づくりの計画策定と実践)
地域文化行事の企画や文化サークルの育成により、生涯学習の推進を図る

(趣味のサークル活動、教養講座、文化祭、講演会等の開催)



沼津第一地区

戦後の歩み (その1)

1. 戦災により一小校舎焼失。

昭和20年7月20日夜、沼津市は太平洋戦争の最中、大空襲に見舞われ、全市壊滅の戦災にあい、一小も一物も残さず灰塵に帰した。

2. 有志の努力で一小廃校案を阻止。

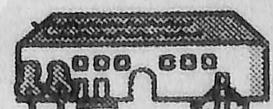
静岡県は焼失を機に廃校の案を立てたが、当時の市当局をはじめ、日吉真一校長、父兄代表の鈴木辰蔵氏、木村光顕氏ら父兄の寝食を忘れての阻止運動が功を奏し、廃校の措置を阻むことができた。

3. 新学制で、東熊堂の海軍工廠で開校。

昭和22年4月1日、第一小学校と金岡小学校との合併により、沼津市立第一小学校創立。東熊堂・旧海軍工廠工員養成所を校舎に充て、初代校長・石内直太郎先生(故人)が就任した。

4. 一小木造仮校舎が完成。

昭和24年7月、木造二階建10教室、延330坪。
翌25年6月、165坪、
4教室も完成し、戦後の教育の充実を図った。



編集室だより



▼待望の地区センターが完成
この新センターを第一地区の住民の「ふれあい」の場として大いに活用したいものだ。
▼昨年十二月にスタートした第一地区コミュニティ推進委員会の活動も本格化。専門部の取り組む各種の行事に進ん

で参加、心の「ふれあい」を。▼地区センターの開館に合わせ、コミの広報紙「コミュニティぬまづ第一」を発刊した。地域住民のため「ふれあい」の紙面づくりはあなたが主役。皆様からの情報提供を期待。
▼沼津第一地区・戦後の歩みをシリーズ物として継続して掲載することにした。太平洋

戦争後の厳しい環境下での復興へ向けての苦労の歴史を振り返り明日への教訓としたい。
▼広報紙の編集作業は総務部、青少年育成部、教育文化部の選抜で行っているが、編集に興味のある方はセンター事務局に申し出てください。

